



ソプラノサクソを手にする幸田さん

## バードマン幸田さん

東京・新宿民商「ジャズスポットJ」店主

全国商工新聞

2018.12.3



有名、無名のミュージシャンが多数競演

# 日本のジャズ界 支えて40年

東京・新宿、靖国通りに面したヒルの階段を下り、狭い通路を折れ進むと、「ジャズスポットJ」にたどり着きます。有名、無名、無数のミュージシャンが競演してきた「J」は今年、40周年を迎えました。店主は新宿民主商工大会(民商)の会員、「バードマン幸田」こと幸田悠さん(72)です。扉を開けると、優しい笑顔が待っていました。

## 生の演奏を楽しんで



1978年10月に経営を引き継いだ「J」。店の

### 中小業者として 生きる

前オーナーの急死後、1978年10月に経営を引き継いだ「J」。店の内では、早稲田大学モダンジャズ研究会の1年後輩でタレントの森田一義(タモリ)さんが設立以来、取締役宣伝部長を務めてきました。幸田さんに次ぐ出資額です。「僕は10年勤めた大手企業を脱サラし、店主になりました。ここまで続いたのも、出資してくれたみんなのおかげです。タモリも、毎年2回開く取締役会を一度も欠席したことがありません」

ステージでは、月に3〜4回頼んでいるピアノの調律が終了。息つく間もなく、この夜出演の若手ドラマー、西川彩織さんらのリハーサルがスタートしました。幸田さんは「彼女もこの飛び入りで演奏を始め、今やCDを出すまでになりました」と目を細めます。

運営会社では、早稲田大学モダンジャズ研究会の1年後輩でタレントの森田一義(タモリ)さんが設立以来、取締役宣伝部長を務めてきました。幸田さんに次ぐ出資額です。「僕は10年勤めた大手企業を脱サラし、店主になりました。ここまで続いたのも、出資してくれたみんなのおかげです。タモリも、毎年2回開く取締役会を一度も欠席したことがありません」



「店は再起不能に。『店を畳むしかない』。そんな僕に助け舟を出し、再建委員長を買って出してくれたのが常連だった漫画家の赤塚不二夫さんでした」

常連客や出演者から瞬く間に募金が集まり、火事から2カ月足らずで再開。「近所や民商の皆さんの力もお借りしました」と振り返ります。再開を機に広さが2

倍、85席になった「J」。国内外を問わず、多彩なミュージシャンが熱演を繰り広げました。チェット・ベイカー、レイ・ブライアント、パット・メセニー…。数多くの日本の名手も来店しました。ボサノバ歌手として世界的に活躍する小野リサさんも、デビュー前に初演奏。名前が浸透する足掛かりになった場所が「J」です。取材当日に

は、ニューヨークで活躍するピアニスト、大野智子さんがふらりと来店し、飛び入りで2曲、セッションに参加。こうしたドラマはいつものこと。幸田さんは「音が立って、鋭いよね。大学時代からここで演奏してもらいました。彼女の結婚式の司会も僕がやったんですよ」

「タモリさん、赤塚不二夫さん、水森亜土さんなど、すごい人たちと親交がある方なのに、とても控えめでそんな部分は全く見せない。セニ・カネじやなく、文化やジャズを心から愛している。」



●ジャズスポットJでは毎夜、音の競演が繰り広げられます。●「J」の店内で、米国のジャズピアニスト、レイ・ブライアントさん(1931〜2011)と並ぶ幸田さん(1986年)

「多くの方に生のジャズを楽しんでいただければ、きのうも、初来店の初老のお客さまが『ライブってこんなにすごいんですね!』と驚いておられた。今後変わらぬ、ジャズの歴史をつくる場を提供していきたい」

▽東京都新宿区新宿5の1の1 ロイヤルマンションB1 203・3375 4・033015